

所報 すくも

発行 宿毛市教育研究所

宿毛市長田町 3-80-11(宿毛市教育委員会内)

TEL 63-1127 FAX 62-0076

E-mail sukumo-l@city.sukumo.lg.jp (LGWAN 系)sukumo-l@kochinet.ed.jpURL <http://www.kochinet.ed.jp/sukumo-l/>

宿毛市教育講演会

7月29日(月)に宿毛市総合運動公園武道場にて、教育講演会が開催されました。出口教育長の挨拶の後、小筑紫小・中学校の一貫教育に関する実践発表を、小筑紫小学校研究主任中平先生と小筑紫中学校研究主任稲野先生にいただきました。平成22年の小筑紫小学校移転により、校舎が隣接していることを活かして行われている一貫教育の成果と今後の取組について、分かりやすく説明していただきました。



その後、「呉市の一貫教育について」という演題で、広島県呉市より大塚加奈校長先生にお越しいただき、講演をしていただきました。中1ギャップの解消と自尊感情の向上を目指して、平成19年度より呉市全ての中学校区で始まった小中一貫教育は、小1～4が前期、小5～中1が中期、中2～3が後期と区分されています。その根拠や中期に重点を置いて取り組まれている理由を、①身体の発達と心の変化、②生徒指導上の課題、③学力形成上の特質の3点から、表やグラフを基に平易に説明されていました。



また、小中一貫教育における学校評価の活用、仕組みづくりとタイプ別の特色ある取組、学習指導要領を踏まえた取組等について、施設一体型の一貫教育と施設分離型の一貫教育、両方を経験されているという点から、具体的に分かりやすく説明していただきました。今後一層小中一貫教育を進めていきたいと考えている宿毛市にとって、大変ためになる貴重なお話だったと思います。

お詫び

教育講演会の会場が、空調設備が整っていなかったために、先生方には大変暑い中講演を聞いていただくこととなり、また最初の実践発表の際にはスクリーンが見つらなかった方々もいらしたようで、申し訳ありませんでした。

*アンケートより

【小中一貫教育の良いところ】

- ★ 小中連携は、中1ギャップの解消、9年間を見通した教育をする上で、とても大切なことだと感じています。人材面、経済面、施設面での課題はありますが、まず話し合いを持つことなど、出来ることから始めることが必要だと感じました。
- ★ 小中一貫のよさは、専門性を生かした取組や、生徒にとっては交流することによって自己肯定感が生まれ、児童にとっても憧れや目標を持ちながら活動できることだと思いました。
- ★ 小中が連携していると、9年間を見据えた教育活動も展開しやすくていいなと思いました。今の学年の学習が、どの学年の学習につながっているのかも分かって指導していけるなど、良い面がたくさんわかりました。
- ★ まず初めに述べられた「生徒指導上の課題、小5の課題(思春期の不安)が、中学校になって表面化しているのでは」という意見・報告に大変勉強になりました。そういう課題を把握しながら、小中一貫教育をすることによって、児童・生徒の不安を取り除き、やる気のある学校生活と学力を保障する取組に、大変興味・期待を持ちました。宿毛市は大塚先生の呉市のように大規模な学校ではないので、交流できる場合は、もっと児童・生徒の実態に合わせた教育ができるのではないかと思います。
- ★ カリキュラムマップに基づいた実践をされ、広島の実験を活かした取組をされており、焦点がぼられた学習活動がなされていました。小中一貫教育は、取り組むまでは難しく感じますが、取組に慣れてくると、共に学ぶことが多く、(教師にとっても児童にとっても)9年間を見通すことのできるものだと感じました。
- ★ 「宿毛市の小中一貫教育で何をしていかなければいけないか」について、ヒントをたくさんもらった講演であった。中学校の教員からすると、中学校入学時の配慮がしやすくなるし、小学校に行き出前事業を通して児童の様子分かるので、今以上に連携を進めていきたい。



- ★ 地域の方とも協力して行われることも多く、小学生からすると中学生との交流は貴重であると思われるので、双方にとって良い影響があると思う。小中の教員が顔合わせする機会があるということは、児童生徒の安心感にもつながると思う。
- ★ 自分に自信を持ち、夢に向かって進んでいく大切な取組ですね。やらせるではなく、子どもと同じで教師も主体的に子どものためにやっています。

【大切なこと】

- ★ 市全体で取り組むことの教育効果の高さを感じました。本校でも小中連携については取り組んでいるところですが、小中一貫校の取組なども取り入れることにより、より高い効果や成果が期待できると思いました。小中一貫のキーワードは、教員同士が仲良くすること、そして自主的・主体的に取り組を進めることだと思いました。
- ★ 高知県は全国でも人口が少なく、子ども達の数が減少しています。学校数も減ってきています。一人ひとりの子ども達を大切に、よく見てあげることが大事だと思いました。小中連携をしていく中で、第一に子ども達のことを考え、チーム学校として協力して大切さを改めて感じました。
- ★ 施設一体型は、すぐに交流が図れるが、良い所も悪い所もすべて見えるので、中学生の行動やそれに対する指導の大切さを感じた。小学生と交流することで、中学生の自己肯定感を高め、良いお手本になろうとする気持ちを育てられる取組だった。
- ★ 子どもが交流する時間の確保、教職員が話し合う時間の確保が、負担にならないようなカリキュラムマネジメント、年間計画を立てて実践していくことが大切だと感じました。先進校の貴重な話を参考に、よりよい小中一貫教育がどの学校においてもできるように考えなければいけないと思いました。
- ★ 小中合同で行事を実施する場合、誰が何をするかという役割分担が大切である。また、一貫教育を進めていく上で、あれもこれもするのではなく焦点化しておくことの大切さも学ぶことができた。出来ることをどんどん考えていきたいと思うことができる講演であった。
- ★ 「高知夢いっぱいプロジェクト」とやっていることは同じだと思った。あとは、理論的にどうしていくのか？「学力面のつなぎ」が大事であると思った。どこでつなぐのか？教科なのか総合なのか？大事なものは「続けること」だと思った。



【講演から学んだこと】

- ★ 実行性を考えた取組を行うことが素晴らしいと思います。身近な部分で一つでもがんばれることができれば、学校全体でできたことは広がりを見せ、できることが増えていくのだと思います。また、教科、系統、地域それぞれのつながりを意識していること、特に地域とのつながりで防災に力を入れた取組も参考になりました。子どもたちが取組のまとめをして、発表しているところも素晴らしいと思

います。

- ★ 小中一貫教育における組織的な取組についてよく分かりました。仕組みづくりを詳しく聞くことで、話し合いがスムーズに行われる仕組みが分かりました。校舎のつくりから特色ある取組が行われていました。内的環境と外的環境を分析することにより、強みと弱みをしっかり理解し、活動や取組を考えていることが参考になりました。小中連携と共通した取組で、効果があったことが本校で行っている取組と同じものがたくさんあったので、これからも続けていきたいと思います。成果も同じところがたくさんあったので、今後の取組の参考にしていきたいです。
- ★ 児童・生徒が交流する中で学び合いもあり、互いに学び合える良さも知れて良かったです。9年間で小中互いの良さのある授業や、研修において全職員で見とれる点など勉強になりました。

【もっと知りたいと思ったこと】

- ★ 4・3・2年制で、小中の乗り入れなど、9年間で統一した指導は効果があると思います。それらをどう保護者や地域に返しているのか。保護者や地域の反応なども聞いてみたいと思いました。
- ★ 良さを聞くにつれ、中一ギャップを乗り越えた後、卒業後の仲間作りの問題や高一ギャップは起こっていないのかが気になっている。保・幼→小へ、小→中へと学習の場や自分を取り巻く人間関係が変わると、必ずといってもよいほど起こりうるのではないだろうか。進路保障の面でもフォローが必要だと思った。

【小筑紫小・中の発表について】

- ★ 小中隣り合わせで、大変なこともあるのではと思いましたが、隣である利点をフルに活用されているので、大変参考になりました。小学生の中1ギャップも少なくなるでしょうし、中学生にとっても小学生と接することで、有用感も増すと感じました。
- ★ 実践に基づいた報告であったので、とても聞きやすく、自校の実践を思い浮かべながら聞くことができました。
- ★ 小中一貫として取り組んで2年目。大切なことを教えていただきました。私達橋上も、一貫の指定は受けてないものの、同じことを取り組んでいるなあと感じました。

- ・ 小中の教職員が仲良し
 - ・ 小中の教職員が活発に交流
 - ・ 教科で交流・あいさつ運動・運動会
- 今年は特に取り組んでいるなあと思います。

保育園は休園しましたが、小中の連携はとても大切ですね。

